

学校だより

プラタナス



令和2年9月24日(木)

No.23

市川市立市川小学校

校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>

「タテ」でも「ヨコ」でもない、「ナナメの関係」で子どもを支える

40代後半にリクルートから教育界に転身し、初の民間人校長になった藤原和博氏の名前を聞いたことのある方もいらっしゃるかもしれません。杉並区立和田中学校や奈良市立一条高等学校で実施された「よのなか科」などが話題になったこともあります。この藤原氏の10数年前の著書『校長先生になろう!』の冒頭に、「ナナメの関係」が記されています。

子供を育てるのは家庭が中心ですが、学校運営協議会も含め、「ナナメの関係」で今の子供たちを支えていきたいものです。まずは、互いに声をかけ合うことから!『校長先生になろう!』から引用して、以下に紹介します。



(略) だとすれば、子どもたちのまわりに、親でも先生でもない大人の存在が必要だということをわかってもらえるだろうか。

子どもが大人になるためには、親や先生以外の大人との人間関係が必須なのである。それも、いい子であることを強要されたり、評価されたり、成績をつけられたりすることのない、利害関係のない第三者との関係である。友だちとの距離感を教わったり、悩みを聞いてもらえたり、何となく緩衝剤になってくれたり…いつときの逃げ場や精神的な居場所としても。

あなただって、父親に『そんなこと、絶対ダメだ!』と言って否定されたことを、「いいじゃないかなあ、失敗したって」とサポートしてくれたオジさんや、「お父さんが言っているのはこういうことなんじゃない?」などと通訳してくれたおネエさんの存在に助けられたことがあるはずだ。そうして、ようやく自分の居場所が見つかった思い出もあるんじゃないだろうか。

こうした直接の利害関係のない第三者と子どもたちとの関係を「ナナメの関係」と呼ぶ。

親と子や先生と生徒のような「タテの関係」や、友だち同士の「ヨコの関係」と区別するためだ。肉親であるかどうかに関わらず、世代の違うおニエさん、おネエさん、オジさん、オバさん、おジイちゃん、おバアちゃんたちとの関係。

こうしてみると、人間関係のあり方を身につける道場とも言える「ナナメの関係」が、いまの子どもたちには圧倒的に不足していることがわかる。

地域社会を崩壊させてしまったからだ。地域社会には、商店街や町会やご近所との関係だけでなく、兄妹や親戚や老人世代と同居する家族そのものも含まれる。いわば「人間が子どもから大人として揉まれるための装置」である。

深刻なイジメ問題の本質はここにある、と私は思う。(中略)

この仮説が正しいとするなら、「ナナメの関係」の復興が急務である。(以下省略)

言い換えるなら、子供を中心にした家庭と地域と学校の『パートナーシップ』ではないでしょうか。「やってあげた」「やってもらった」というものではなく、自然な姿を目指したいものです。利害関係なく、同じ目標のもとでそれぞれの立場から取り組めるとすばらしいと思います。

このパートナーシップは、互いの信頼の上に成り立つと考えます。信頼関係はそう簡単には築けません。ですから、とことん話し合うことが必要な場面もあります。直接話すことで、もしかすると「考えがよくわかった」「誤解していた」などということもあるかもしれません。

来週から「個人面談」が始まります。短い時間ですが有意義なものにしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。



今月の生活目標

進んで学習に取り組もう

※丸数字は学年を表します

井田 綾 教諭(3-1)に
9月15日 男児が
誕生しました。



1	木	朝会、個人面談(～2日)	14	水	耳鼻科検診①、まなびくらぶ③
7	水	委員会活動	16	金	内科検診④、まなびクラブ④
8	木	尿検査配付、読書週間(～23日)	20	火	内科検診②⑥
9	金	尿検査回収、まなびクラブ④	21	水	まなびくらぶ③
12	月	5校時日課(～16日)	23	金	まなびクラブ④、尿検査提出予備日
13	火	グループ町探検②	30	金	放送朝会、前期終了(通知表配付)

「ふれあいカレンダー」頒布についてご協力のお願い

現在、千葉県内では、小・中・特別支援学校で、特別な支援を必要とする子どもたちが、それぞれのニーズに応じた教育を受けています。これは、本校のひまわり学級やことばの教室も例外ではありません。また、通常学級においても、何らかの困難を抱え、支援や理解を求めている子どもも少なくありません。こうした子どもたちの教育の充実・発展を願い、「共に喜び、共に歩もう、明日をめざして」のスローガンのもとに、望ましい学校・地域社会づくりに努めているのが、千葉県特別支援教育連盟であり千葉県特別支援学級設置校校長会です。

この活動の一環として、県内の特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室で学ぶ子どもたちの感性豊かな絵画作品を掲載した、壁掛けタイプと卓上タイプ2種類の「ふれあいカレンダー」を作成し、これを通して、特別支援教育への理解と共感の輪を広げたいと考えています。

これを受け、市川市特別支援教育研究連盟でもふれあいカレンダーの頒布を行い、収益金の一部を市内合同行事の補助金等に有効活用させていただいております。

保護者の皆様方には、上述の点やカレンダー頒布事業の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。ご賛同いただける場合は、希望の部数をキリトリセン以下の「申込書」にご記入の上、代金を添えて学級担任までお申し込みください。

1 頒布価格 一部500円(壁掛け版・卓上版ともに)

2 申込期限 令和2年10月2日(金)

3 その他 今回配付するカレンダーは、例年と違って「4月はじまり」です

キリトリセン

『ふれあいカレンダー』申込書

学年・組・氏名 _____ 年 _____ 組 児童氏名(_____)

希望数・代金	壁掛け版 _____部	合 計 _____部	金 額 _____円
	卓上版 _____部		

10/2 までにお申し込みください

